

連続セミナー

Black Lives Matter 運動から学ぶこと

—多文化共生、サステナビリティについて考えるために—

第4回 4th

『差別を支えてきたもの』はなにか

今回のセミナーは、差別に反対する活動にかかわる学生たちとともに、差別の視線を向ける側である主流社会の問題—「われわれ」の日常生活に潜む「みえない/みえにくい」差別—を考えていく試みである。

中山裕美

(大学院総合国際学研究院准教授)

山内由理子

(大学院総合国際学研究院准教授)

「みえない/みえにくい」差別 —学生と共に考える—

×
司会

武内進一
(現代アフリカ地域研究センター)



2021年1月20日(水) 17:40~19:10
Zoomでのオンライン開催

- 使用言語: 日本語
- 参加費: 無料
- 事前申し込みが必要です。(本学学生優先。先着受付順)
- 問い合わせ先: BLM-seminar@tufs.ac.jp (連続セミナー担当)

- 参加ご希望の方は、1月15日(金)正午(日本時間)までに、以下のQRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。

QRコードはデンソーウェアの登録商標です。



ホームページからも登録できます。

URL: http://www.tufs.ac.jp/event/2020/201214_1.html

共催: 東京外国語大学多文化共生研究創生WG、海外事情研究所、現代アフリカ地域研究センター 協力: みんなおキッチン、Moving Beyond Hate

▶ 今後開催予定テーマ ■ 2月10日(水): グローバリゼーション、アフリカ、BLM ほか

BLM連続セミナー 第4回

『差別を支えてきたもの』はなにか

今日の世界では、「差別」は「いけないこと」とあるという理解が存在し、差別を禁止する様々な取り決めが存在している。これは、差別により引き起こされた様々な悲劇を繰り返さないようにという国際的・国内的取り組みの成果であったはずだ。しかし、アメリカに始まり世界中に広がったBLM運動が浮き彫りにしたのは、そうした取り決めにもかかわらず、マイノリティへの差別のまなざしは存在し続けているということであった。

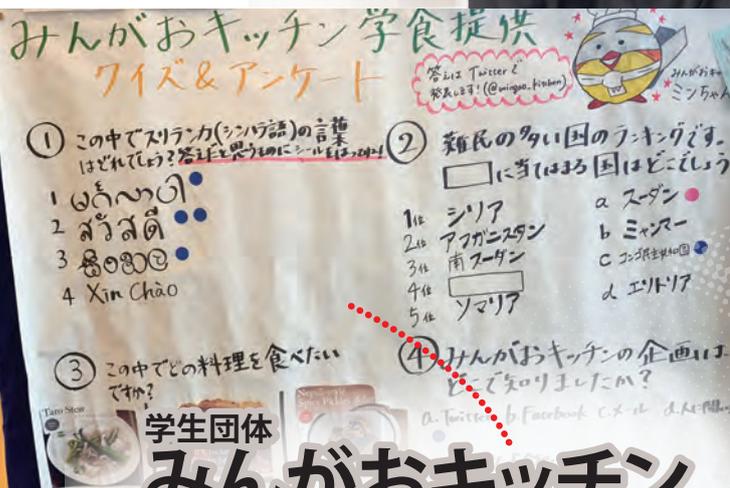
本セミナーでは、このような問題の根幹には『差別を支えてきたもの』が私たちの日常に潜んでいるという現実を目を向ける。そして、差別の対象となる人々への支援に携わっている学生団体のメンバーとともに、いとも簡単に社会の分断を招いてしまうにもかかわらず、往々にして「見えない/見えにくい」『差別を支えてきたもの』と、どのように向き合っていけば良いのかを考える機会としたい。

専門は文化人類学、オーストラリア先住民研究。オーストラリア先住民の研究を進めてゆく中で、マイノリティの立場に立たされること、の意味を考えるようになった。現在はオーストラリア先住民と日本人移民のミックスの人々の研究に携わりつつ、植民地主義・和解・責任などの問題に関し考えを進めている。

山内由理子

中山裕美

専門は国際政治学、国際制度論、移民難民研究。幼い頃に「ルワンダの虐殺」に関するドキュメンタリーを視聴したときに受けた衝撃が、難民問題に関心を持つきっかけになった。現在は難民や移民を取り巻く国際社会の対立と協調をテーマに、人の移動によって生じる問題を幅広く研究している。



学生団体

Moving Beyond Hate

Moving Beyond Hateは、日本そして世界から人種/民族・障がいなどに基づくあらゆる差別をなくすために、新しい反差別運動をつくっています。10～20代の若い世代を中心に、差別にNOと言わない空気を突き破り、日本や世界からあらゆる差別の根絶をめざす学生団体です。



みんなの笑顔×ミンガラバー(ビルマ語で"こんにちは")。食で始まる難民との出会いからみんなの笑顔を生みたい、そんな思いを込めた団体名のもとで、「食」という身近なものを通して日本に暮らす難民について知ってもらうことをめざす学生団体。学食での「難民の故郷の味」提供や、自主的な学習会を企画・開催している。

共催：東京外国語大学多文化共生研究創生WG、海外事情研究所、現代アフリカ地域研究センター
協力：みんながおキッチン、Moving Beyond Hate

※ 第5回セミナー「グローバリゼーション、アフリカ、BLM」は2月10日(水)に開催します。